

2017 年 1 月 31 日

ライフサイエンス系知財ファンド LSIP への支援完了について

株式会社産業革新機構（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：勝又幹英、以下「INCJ」）は、同社が出資支援していたライフサイエンス系知財ファンド LSIP*の事業存続期間満了に伴い、同ファンドへの支援を完了しましたのでお知らせ致します。

*LSIP：Life-Science Intellectual property Platform

INCJ は 2010 年 9 月、知的財産戦略ネットワーク株式会社（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：秋元 浩）と共同で、ライフサイエンス系の知的財産を対象とした投資ファンド LSIP を設立しました。同ファンドは、ライフサイエンス分野における特許の集約化や、集約した特許の第三社へのライセンス供与を目的としており、この度、6 年間の事業存続期間を満了致しました（2014 年 1 月末に 3 年間の存続期間を延長）。

参考）INCJ は、2010 年 8 月に「わが国初の知財ファンドを設立」を公表しています。

URL: <http://www.incj.co.jp/PDF/1417415178.01.pdf>

LSIP ファンド運営合同会社

設立	2010 年
事業内容	LSIP の運営
所在地	東京都千代田区
代表者	秋元 浩

知的財産戦略ネットワーク株式会社

設立	2009 年
事業内容	知財サポートサービス、知財インキュベーションサービス等
所在地	東京都千代田区
代表者	秋元 浩
URL	http://ipsn.co.jp/

株式会社産業革新機構（INCJ）について

INCJ は、2009 年 7 月にオープンイノベーションの推進を通じた次世代産業の育成を目指して、法律に基づき設立された会社です。総額約 2 兆円の投資能力を有しており、革新性を有する事業に対し出資等を行うことで産業革新を支援することをミッションとしています。

INCJ は、投資・技術・経営等で多様な経験をもつ民間人材によって運営されており、法令に基づき、当社内に設置している産業革新委員会にて、政府の定める支援基準に従って投資の可否の判断を行い、日本の産業革新に資する投資を実施いたします。

以上

<本発表資料のお問い合わせ先>

株式会社 産業革新機構 企画調整 Gr. 広報 入江、坂井 東京都千代田区丸の内 1－4－1 丸の内永楽ビルディング 2 1 階 電 話：03-5218-7202 URL： http://www.incj.co.jp/
--

[別紙]

1. 対象事業会社

LSIP ファンド運営合同会社

- ・設 立 : 2010 年 9 月
- ・代表者 : 秋元浩
- ・所在地 : 東京都千代田区
- ・事業内容 : LSIP の運営

2. 支援決定概要

- ・支援決定金額: 10 億円(上限)
- ・実投資額: 10 億円
- ・共同投資家: 武田薬品工業(株)その他製薬企業
- ・株式保有割合: ファンド総額 11.2 億円のうち 89.2%
- ・支援決定公表日: 2010 年 8 月
<https://www.incj.co.jp/news/upload/docs/1417415178.01.pdf>
- ・投資ストラクチャー図:
<https://www.incj.co.jp/performance/upload/docs/1420699459.02.pdf>

3. 経緯

(1) 出資の経緯

2010 年 8 月、知的財産戦略ネットワーク株式会社(以下「IPSN」)と INCJ は、我が国初の知財ファンドとなる LSIP ファンド運営合同会社(以下「LSIP」)を設立すると発表しました。LSIP は、ライフサイエンス系の知的財産に投資を行うファンドで、バイオマーカー、ES/幹細胞、がん、アルツハイマーの 4 分野を対象(後に、22 分野に拡大)に、大学・研究機関等から知財を集約し、価値向上を行ったうえで、製薬会社等にライセンスすることを、その目的としています。

INCJ は、2010 年 9 月の LSIP 設立に際し 10 億円を上限とする出資を決議し、設立時に 6 億円を出資しました。LSIP のファンド存続期間は 2014 年 1 月末までの 3 年を予定していましたが、組合員全員一致で 2017 年 1 月末まで新たに 3 年延長し、その際、2014 年 3 月に 4 億円を出資しています。

(2) 事業の推移

伝統的に医学部が強い地方国立大学では、知財戦略、知財強化に対する一定のニーズがあることを確認することができたとともに、大学・研究機関等から一定の特許を調達し集約することにより、基礎技術の結集には成功しています。一方、エレクトロニクス分野と異なり、ライフサイエンス分野では、特許に加えて治験に必要なデータが重要であることから、製薬会社等へのライセンス供与は当初期

待されていた水準にはファンド期間内に達しておりません。

なお、外資系知財ファンドの台頭による特許買収の動向も限定的で、大学等の特許を買収から守る必要性も低くなるなど、当初に想定していた背景も変化してきています。

(3)Exit の経緯・内容

そのような状況下、LSIP は、2017 年 1 月末を以って、6 年間の事業存続期間を満了したため、INCJ は、同ファンドへの支援を完了いたしました。

4. 主務大臣(経済産業大臣)の意見

我が国の産業競争力の源泉の一つである健康医療産業の強化のため、オープンイノベーションの重要性はますます高まっている。本件により顕在化した課題を精緻に分析し、知的財産の実用化を促進するための方策を検討されたい。